

# 挑む!

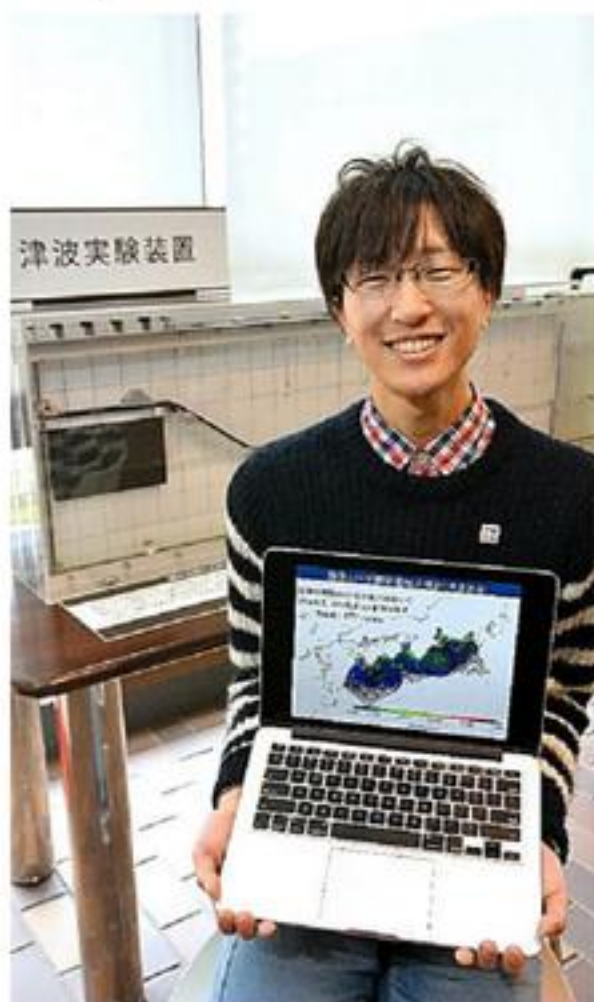
津波防災研究をする関西大院生

せと しゅうじ  
門廻 充侍さん(26)

## 3・11原点 正確な情報届けたい

大地震による津波の被害をいかに減らすか。海岸に設置された海洋レーダーを活用し、津波警報につなげるシステムの研究を進める。「将来の南海トラフ地震のために教訓を生かしたい」津波研究の原点は6年前の東日本大

震災。大学では空気や水の流れに関する物理学を学んだが、各地で相次ぐ災害に関心を持った。大学院では津波を研究したいと、関西大の高橋智幸教授の研究室（大阪府高槻市）を訪ねたのが、2011年3月11日。高橋教授は



大阪府茨木市出身。関西大システム理工学部から、同大大学院に進み、社会安全研究科博士後期課程の大学院生。16年、ハワイに短期留学。

「運命的な感じがする」という。

大阪にいる自分に何ができるかを考え、翌月に宮城県気仙沼市の被災地を訪れ、高橋教授らの調査に同行。「直前まで人の生活があった場所が失われる津波災害の怖さを実感した」

東日本大震災では津波予測の過小評価が課題になった。地震計の観測データから津波の高さを推定するのは限界がある。より正確な津波情報を住民に届けるため、大学院で津波警報について研究。13年度の土木学会海岸工学論文奨励賞を受けた。南海トラフ地震を見据え、紀伊半島に設置した津波観測用のレーダーなどで、捉える精度を高める研究を続ける。

小学生の時に小児がんを患い、約7カ月間入院した。「弱い立場の人に寄り添う防災の視点を持ち続けたい」

文・今直也 写真・堀内義晃

記者から

海外でも何度も研究発表を経験。「ものおじしい」と高橋教授。その行動力で一層の活躍を。